（四日夕刊）
福島新聞
（休刊　大祭日の翌日　第三日曜）
定價（壹枚二錢、壹ケ月一五十錢、郵税十錢）
廣告料（雜報欄行五十錢　廣所指定二十錢增）
發行兼編輯印刷人　遠沼龍輔
發行所　福島縣平町字町拾六　磐城新聞社　電話五六四番

月前の紅葉を賞す

城山隱士

○奈良の都のそれならでみやびも遠きみちのくの川前通夏井川岸の紅葉夏井川岸のもみぢ葉は今しも匂ふしほの色に殘るかがみは千代もくちせず　今がさかと君をまつらん其紅葉

○さかりかと君をまつらん其紅葉ひかされて昭和二年十月三十一日恐れ多くも大正天皇御存生にて此世にましまさば今日は天長祝日として國民擧つて今日の佳き日は　玉宮の生まれ給ひし佳き日なりと祝ひことほぐ祝日に今は空しく此世を神去り給ひて淋しく勝ちなる諒闇中なるゝ此日を以て川前紅葉を見んとて同僚四人及數多の敎へ子を召し連れて午前九時二十五分と云ふに磐越東線下り列車にて平驛を立ち出つ此日朝來雨ふりて

朝まかぎ雨やあらんと憂へしに時すぐまゝに晴れ亘りけり

紅葉狩もなどの日にはあらずと思へるに時過ぐまゝに一天晴れわたりて最好適日となりぬ

汽車の中は立つ餘地なきまでに入り込みぬ

もみぢ見に行く故にやあるらん

人出多きには驚きぬ

由々川前通はもと地獄通とて古は通行困難なる道路なるに引き換へて夏井川溪谷　風景は春は櫻に夏は躑躅秋はもみぢ冬は雪觀と四時折々に眺め宜しく

春は花　はつゝじに　秋もみぢ冬は雪觀と　こゝろ〳〵に好きなどゝ　もみつゝ赤井驛を過ぎ小川郷驛を去りて早や汽車は江出のあたりにかゝらんとす

赤井過ぎか川郷をも　すぎ去りぬもみぢの谷　や我を待つらん

敎へ子葉は口々に喜び勇みてもみぢが見ねるもみぢが見える然るに汽車は何と云々に掛け茶屋さへ出來て殊に本年は力屋と云ふ料理屋さへ盛んに中よりは三味線山を見たいなど寧汽車の進の床しき聲さへ聞ねたれば或は都の人の來り遊べるならんか

もみぢ見んと急ぐ心の　敎へ子は汽車をかこつ　もことわりにこそ

汽車は進みの遲きながら或は景色好き山と山との間を通り或は薄暗き洞門をくゞり或は流れ潺々たる川前通の溪谷中にて絶景の樣ある籠場の瀧も見え間もなく牛小川のもみぢ山も見たり籠場の瀧は先年一度此處に遊びて駄作をものしたる事がある

飛瀑激石嘯如龍　突兀奇巖似虎容　此景眞東西絶勝　使驚人唱國中宗

又牛小川のもみぢ山を汽車中より眺め見て何時見ても何時見ても好し川前のもみぢ山見渡せば山てふ山は皆赤し彌生の春の花よりも濃し

水清く木々のもみぢ葉くれなゐに常盤の松も色まさりけり

深緑しにゝるばかりの松が枝めぐりて赤きもみぢ山かな

茲に一つの議論が起つた夫は川前の風景ばかりでは無しがすべて風景は遠くより眺めて趣より近づけば來て見ればさほどでもなし花の吉野山で寧汽車中より覽見する方が遙に勝しである云々と兎角の議論最中に早や午前十時十五分川前驛に到着した是より驛前に整列して夫々部署を定め小川郷まで徒歩しながら川前の風景を滿喫する趣向である

川前は狐狸の住みかと思ひしに開けゆく　世は都なりけり

今は汽車が通ずるばかりか人力車も通れば自動車も通ひ人里離れたる此溪谷に處に掛け茶屋さへ出來て殊に本年は力屋と云ふ料理屋さへ盛んに中よりは三味線山を見たいなど寧汽車の進の床しき聲さへ聞ねたれば或は都の人の來り遊べるならんか

江田の青年團員の好意にて景色好き處々には臨時休憩所を設け腰掛さへ備へ付けたれば我等の如き徒歩の旅行者には頗る都合なり例の牛小川のもみぢ山の邊りよく暫く休憩しもみぢの風景を十二分に愛玩す此山は元來奇怪岩妖石など並立して恰も壁の如く其々に綠色濃き松ケ枝は常綠の色も

明治節十句

新島　新平

明治節大路小路の人通り

明治節一家團欒菊へ來る

新しい旗を樹てり明治節

菊活せる大帝を偲ぶ明治節

明治節日本中に菊薫り

明治節今日を記念の會が殖へ

子等嬉々と校庭に唄ふ明治節

今日の佳き日を肅然と猪口を持ち

文談に武談に更ら明治節

明治節一家平和に暮したり

二人美はし　又其間を點綴するもみぢは滿山皆あかにてあかは益々赤く綠は益々綠に其風景實に何とも名狀し難し

赤井獄高く聳ねて雲を佩び夏井川千古に流れて水清し　川前の通は地獄か夫ならで　春は花咲き夏岩躑躅　秋はもみぢ月を賞で　冬は雪觀と　とりどりに樂しみ多き歡樂境　眺め　絶えぬ三四里の　谷間給きゝそがやう牛小川なるもみぢ山今　ぞ盛りの最中なる　獨かうの錦飾れる天津乙女　裳裾かゝげて舞ひ躍る　中に一入みどり濃き常盤の松は　我日の本の乙女子の操正しき鑑なり

溪流激散水愈清　奇石竝歌景益盛　數里斷崖もみぢ耀　錦衣天女舞如迎

もみぢ葉の赤き心を　命にて御國につくせ　我大御民

▲一白　熱心を認められ意外の邊より助けらるべし▲二黑　温順直ならざれば人の反感を招く事あり▲三碧　驕ぶりの心失せざれば人おのづから遠ざかる日▲四綠　躍進せず急功を求めず自然の幸を樂むべし▲五黃　日上の者に疎まれ易き日謙遜が第一と知れ▲六白　禍は遠くにあらず近く手元に在り進むは凶▲七赤　戸迷ふて取るべきものも投出すことある日▲八白　福の神に尻向けられぬ樣に氣を揃へ勵むべし▲九紫　生きしたる元氣となり働き甲斐ある日

※……明治節
※……舊十月十一日
※……吉凶
※……新暦十一月五日

講談

血で血を洗ふ

(178)

高橋翔太郎創作
布施平八郎揮毫

何事か囁く

重太夫は語をついで

『然らば盜み出したのは男の子で奪ひ返して來たのが姫であつたかも知れませぬ或は門衛の者が曲者を追ひかけた間に他から連れて來て取り替えてしまつたのかも知れませぬ』

重太夫の言ふことは當つてゐた。その夜石出忠兵工が神部清左工門と打ち合せて產所へ深雪の方の生んだ子を盜みに入つた門の外には寶部左内が二日前に生れて清左工門の女の子を抱いて待つてゐた、產所には忠兵工の妻の千代と乳人たる寶部左内の妹がゐて手筈が定めてある忠兵工が盜んで出る次の間に宿直してゐた清左工門が追ふ――ところが重太夫の一味が忍んで忠兵工、打つてかゝつた忠兵工はこれには困つたが追つて來た清左工門が立ち向ふ

昌康は以外に驚きながら清之助を呼び出すことを命じた昌康は今日まで千世姫の顏を見たこともなし清左工門に對しても內心の好意がないのでその子を呼び出してどうしようと云ふような氣もなかつたので清之助の顏も見ず何事も氣が付かずに打ち過ぎたのであつた

『してた呼出しに相成つて若し拙者の申す如く清之助が成昌公の公達と相判りました節は如何にいたしませうや』

『さればさ、兄成昌の子と相判らば我にとつては敵と同然生かして置いては枕を高く眠られぬ』

昌康は聲を低めて云つた

『如何にも』

と重太夫はうなづいた

昌康が枕を高く眠られぬと云ふ以上、重太夫も同じであつた。

『清之助一人なら何も怖れることはないが、彼の周圍にはどのような策士が居ようも知れぬ現に我に敵對を宣言してゐる天狗の假面の怪人　如きが清之助を擁立して我に及向ふ時は一大事ぢや毒ある花は蕾の中に根を切つて枯らさねばならぬ』

『仰せの通りでござります』

『どうじや斯樣なことにいたしては……』

昌康は重太夫の耳に口をあてゝ囁いた

『妾にはた聞かせ下さいませぬか』

『照の方は不服氣に頬をふくらして云つた

『いや、その方には後程、余がよく聞かしてやる』

と昌康は制した

『然らば明日――』

と重太夫は起つた

『たゝ飽迄も清之助が兄成子であると云ふことは秘しなさいぞ』

昌康は念を押すように云つた

『はつ承知仕りました』

と重太夫は一禮して其處を立ち去つた

『然し意外のこともあるものではないか――』

と昌康は照の方を振り向いて云つた

『ほんとに油斷がなりませぬ』と照の方は恐ろしげに云つた。

廣告

くすりの御用は　五丁目角の　山野邊藥店へ

ちろよろり　御需めの方は　平白銀町　吉田新聞店へ　電話四十八

平町田町　高久病院　電話五一三番

平町紺屋町　藤沼醫院　電話五〇七番

商標登録　酒造元　福島縣平町　山崎合名會社　電話（營業部一〇番　醸造工場二七番）　振替東京一九七五五番

上野車坂町四三　東京支店　電話下谷五七一二番　振替東京六八三一二番

生花教授　池ノ坊流　生花を懇切叮寧に御教授いたします、た遊びがてら御出で下さい　平町五丁目（釜屋横町）　須藤まつの

◇天下に轟く前の最高映畫週間

◇市川松之助主演　土方勝三郎　田中絹代助演

按田全聞　天王寺の腹切　十一卷

萬延元年春三月、天日暗きを靖さんと井伊大老要擊の領主たる水戸の浪士高橋庄左工門が尊き血によつて境かはれたる聖代の文化鶏……が鳴く東健兒の誠心は鹿島の果てのあなたぞ知れ

小泉嘉輔主演　小松みどり　德川良子助演

人情喜劇（原名）壽の金（改題）金　八卷

金の憂き世を年の暮、人の足並可時にも增して速くなる……とは昔謂れた言葉だが現代だつて變りはない節氣師走の二十九日壽し金さんのヤリクリ話しが大當り

日活が誇る最近の大作オールスターキャスト

河部五郎、大河內傳次郎主演

幕末劍戟異聞　地雷火組　全十卷

元治元年七月十八日の夜開港攘夷の二論沸騰の騷亂の巷と化した京洛困苦流離の二論沸騰の騷亂の巷と化した京洛困苦流離の間に開かれたる合桑討伐謀議の席上に於て潛々老職城戸重藏の裏切りは地雷火組の爆發に端をなし精英桂小五郎に絡る美妓妖婦劍聖の活路は果して？……

十一月三日より　明治節に付き　晝夜公開　高級常設　平館

醸造元　清世界司　石城小名濱町　清水屋　銘酒　小野晋平　各炭鑛御用達　電話六番

營業種目　內地材　材木各種、羽柄材各種　建築諸材請負　礦山用坑木其他諸材請負　外材部　米松、米杉、大角製材調達請負其他

佐藤材木店　常磐線平町新川町　電話三三五番

東京の二越來る　平町住吉屋旅館本店に於て　十一月五日、六日の二日間（午前八時より午後五時まで）

毎度格別の御引立を蒙り、誠に有難く厚く御禮申上げます。陳者今般上記の通り、呉服太物及び雜貨等、東京流行の粹を蒐め、陳列販賣致します。尙洋服別誂の御注文に應じ度熟練なる裁斷師を同伴致します

三越呉服店

片濱自動車運轉　平、高久、豐間、江名

停留所　一丁目小川屋、四丁目泉屋　新川町松崎硝子店、月見町白土屋　月見町一二三屋、江名山口屋

電話……二一七番　一四二番　一砲三人以上はお迎ひに參上致します

平町四丁目和泉屋旅館前　鈴木　片濱自動車商會

三井呉服店の陳列會於新館

◎今秋流行新製品　十一月一日ヨリ

一ショール　一着尺モスリン　商品豐富　一友仙モスリン

◎店內には紅葉と自慢の菊花

京人形とアメリカ人形陳列是非御來觀の程奉希上候

◎たつとめ特價品

▲白時　兩毛　一丈物　九十錢
▲珍柄　ネル　一丈物　一圓二十錢
▲白キャラコ　足袋　二十錢
▲黑　朱子足袋　三十錢
▲鬼コール足袋　二十八錢

平町三町目　三井呉服店　電話三十八番

診察無料　如何なる重患でも直ちに癒る三丁目の大谷へ御出下さい　院長博士　敬白　大谷時計病院　電話一九番

中田江名郵便局長が 猪狩、鹿島を誣告で訴ふ

虚偽の申告や告訴の爲め 名譽と信用を毀損せられ

石城郡江名郵便局長中田政吉氏は平町留の猪狩千勝、同郡鹿島町鹿島兼吉の両名を相手取り去る二日付け平區裁判所檢事局宛誣告の告訴を提起したが告訴の理由とする處は

彼告訴人猪狩、鹿島の両名は去る九月廿五日施行された縣會議員選擧に當り縣議候補者野崎滿藏の選擧事務員たる處猪狩千勝は江名郵便局長たる告訴人をして隠戒處分を受けしむる目的を以て昭和二年九月廿日野崎滿藏差しの郵便物千二百五十一通を平局より江名郵便局に發送し同局に到着したるに拘はらず故意に該郵便物の配達を遲延せしめ該選擧期日後たる同月廿六日に配達したりと虚偽の申告を監督官廳たる仙臺遞信局長に發したが、然れども江名郵便局管内に配達すべき野崎滿藏の郵便物は九月十九日三百九十七通と同月二十日六百四十三通の外到着したること全然なく隨つて之を故意に配達を遲延せしむること不可能の擧實にして同月二十四日野崎滿藏選擧事務所より江名郵便局に對し右の紹介ありたるにつき局員武藤末吉氏に該郵便物の到着せざる旨を答ひたるが故に右郵便物が江名局に到着せざるに對し再び江名局に到着せざるに拘はらず故意に該郵便物を隠匿して同月二十四日野崎滿藏選擧事務所より江名郵便局に發送したる事實あるに徴し被告訴人等は該郵便物が江名局に到着せざりし事實を知り乍ら敢て前記の如く虚偽の告發をしたものである、告訴人は江名郵便局長たるのみならず江名町會議員、江名漁業組合長、江名信用組合長等の名譽職にある外帶勤者にして社會上名譽及信用を有するものなる處被告訴人等の虚偽の告訴及び申告により仙臺遞信局の調査を受けし或は平檢局に召喚せられ新聞紙に掲載せられ多大の名譽及信用を毀損せられたるを以て本訴に及むだものである。

中田政吉氏の 功勞と賞勳

勲七等その他

江名郵便局長中田政吉氏は同町自治に功勞多く各種の名譽職にあり同町中堅の人物で重なる關係の履歴を示せば左の如くである

□町村自治關係の分　明治三十四年六月一日江名村會議員に當選爾來勤續すること二十七年現職同三十六年十月石城郡會議員爾來勤續すること十四年四期に至る其間同郡參事會員に當選同三十八年十一月江名消防組頭拜命爾來大正二年まで九年間在職明治四十年四月江名村助役に轉任爾來大正二年まで九年間現職に至る

□水産關係の分　明治三十六年六月江名漁業組合設立同三十七年二月漁業組合監事に當選爾來勤續同四十二年二月理事に當選同四十三年十二月漁業組合長當選爾來每期再選其間十八年現職に至る大正三年福島縣水産會評議員當選勤續現在に至る

□信用組合關係の分　大正七年江名信用購買販賣利用組合組織し同年理事兼組合長爾來ケ年勤續現職に至る同十年福島縣産業組合石城郡會評議員當選同十一年福島縣信用組合聯合會議員當選

□其他　同大正六年一月江名郵便局長(三級)に就職勤續十一年間現職に至る

□賞　明治二十七八年戰役の功に依り勲八等瑞寶章を授與せらる大正二年六月福島縣知事より消防組頭在職中の功に依り金十圓を賜せらる同二年十月福島縣水産組合長より經歩にさんざめく禁酒改良製造に干し表彰せらる同大正四年十一月福島縣知事より多年漁業の改良發達に盡力し漁船漁具の共同購入及び水難救濟機關並に經節製造傳習所設立に關し功勞顯著の故を以て表彰狀及銀杯壹個を下賜せらる同十三年二月十一日農商務大臣より多年の漁業組合の經營に膺り能く其任を竭し功勞尠からざる故を以て金一百圓を授與せらる同十三年四月三十日勲七等瑞寶章に昇叙せらる　以上

小名商港案の通過

毛頭心配不要

閣議の結果豫想し易く 縣では豫算計上

小名濱商港問題は一度は大藏省議で削除されたと傳へられ大いに關係民を惱ましたが去る二日の大藏省査定豫算提示によつて明瞭に承認されたことは既報の如くだがこの結果は現内閣の一枚看板である産業立國策より必ずや閣議を通過し、いよいよ明年度から小名濱港の商港として形付けられることゝなつたが、これに對する伊東知事は

小名濱港　は去月十八日の臨時港灣調査會　答申でも如何に、全東大平洋に於ける重要な港灣で如何に、ひいき目に見ても、等閑に附すことの出來ない港灣であり、第二種重要港灣として指定されたとも、又欲するところである、然るに、如何なる誤傳か、大藏省がこれを削除したと云ふ事で、内心、かゝることは必ずあるまいとは豫期してゐたが非常に必配してゐた今回無事、承認されたので漸やく今迄の骨折甲斐が見えたと云ふもので重荷を下ろした樣な譯である、今後は閣議だがこれとても内務省が非常に力を注ぎ

又鈴木内　相自身が例へどの樣なことがあつても必ず實現して見せると力んでゐる位だから、もう心配はない、同港に對する縣豫算の計上は閣議の結果を待つのがほんとうだが、最早疑ひないところだから、明年度豫算に計上し通常縣會に提出する豫定である」と

小名濱町民 祝賀會

商港實現可能

小名濱商港實現の町民祝賀會は三日午後一時から同町小學校で開催鈴木町長はじめ村振興策港問題等日までの經過を詳細に報告し小野前縣議小野務中、松本德次郎西氏の祝辭あり萬歳三唱祝賀の後同三時三十分盛會裏に散會した

郡農會で 兎肉販賣周旋

副業奬勵一助

石城郡農會では農村振興策の一端として昨年來盛んに養兎事業の奬勵に努めてゐるが最近副業は急激なる發展を見その頭數の如きは郡が、常任會長たる後任校長の赴任に至らなかつた爲め延期されて居たが來る六日童謡、ラヂオドラマ、會員三弦等の餘興ある筈

平町の有資格者 四千百四十名

明日から名簿を閲覧 明春の選擧準備

普選最初の衆議院選擧は明年以上も平町に居住して年五月執行されるが、平町る者で寄留届を爲さざる者役場では右資格者名簿を作成中の處いよ〳〵完成したので明五日より十五日間午前九時より同役場に於て一般の縱覧に供することになつたが、それによると有資格者は四千百三十九名で先般行された縣議選擧の三千七百七十九名に比し三百六名多いが、舊法による昨年度の有資格者九百三十五名に比し約四倍半の増加である右名簿は先月末日までに作成すべきものであるが、三は八月中行れる筈であつたが、常任會長たる後任校長の赴任に至らなかつた爲め延期されて居たが來る六日童謡、ラヂオドラマ、會員三弦等の餘興ある筈

平町の石炭商が 水戸驛で奇禍

何の原因もなしに 背後から斬らる

平町古鍛冶町石炭商永瀬文野喜一(三三)と言ひ精神の鎮造(三七)が二日夜十一時十五分頃下り準急行列車を水戸驛待合室で待つ間椅子を卓く全く突然やられたもので背後より海電ナイフを同人後頭部に續け様一箇所突刺した男があつた吃驚して立上がると今度は前面より打蒐り右前額部にも切付けナイフをもぎ取らんとした際右手にも

切傷を負つたので柵町交番の警官が駆け付け尚も暴れる加害者を取押へ水戸署に連行取調た結果右は自稱宮城縣桃生郡廣淵村中の常磐病院に連れ行き治療を加へてゐるが同病院では語る「右前額部は切傷で長さ三センチ深さ同じ、後頭部刺傷は二個所で何れも長さ一センチ深さ骨膜に達する重傷で全治迄は三週間を要しますと語る」

磐城女學校同窓會

磐城女學校第十二回同窓會は六日盛大に磐城市内で開催される

母のみあとを慕ひ 青年首を吊る

評判の親孝行者が 葬儀の翌日に

赤井村大字高萩夏井川沿岸の雑木林中に昨三日午後一時三十分頃細紐を以て縊死した三十才前後百姓体の男の屍体を折柄通行人が發見驚ろいて平署に届出でたので片寄警部補現場に出張檢視の結果其の屍体は同村松本貞一(三三)で自殺の原因は貞一は性來の小心者で、且つ村でも評判の非常な親孝行者であつたが殘ねて病床にあつた實母エン(六八)が去る一日遂に死亡したのでこれが小心者の貞一は極度に母の死を悲嘆し一面目下農繁時の爲め母の葬儀等に就いても村人に一方ならぬ迷惑をかけた事を苦慮の餘り同日母の葬儀を終つてから遂に自殺を決意し寺から自宅への歸途前記夏井川に飛込んで自殺を計つたが水淺いため死に切れず縊死を遂げたものである愚判明した

上遠野邊りも 紅葉の盛り

日曜人出豫想

石城郡川前地方は磐越東線屈指の紅葉觀賞地として廣く知られ昨今の秋冷に益々谷間、絶壁等木々の稍に茂る葉は朴を注がれた樣に眞紅の美を誇りつゝ訪れ行く客子を待つてゐるが又之を

電話 至急買ひたい希望の方は申出て下さい

姓名社

嬰兒の死体

スワ大事ぞ 實は後産騒ぎ

二日午後五時ころ平町字田町裏の下水堀の中に嬰兒の屍体らしきものが捨てゝあるとの電話に接した平署では俄に活動を開始し片寄警部補が直に數名の警官を隨へて現狀に急行して見るに果して堀の中に大人の着物に包んだ嬰兒の屍体らしいものがあるので仔細に調査したところ嬰兒ではなく後産であることが判明した何

淺野總一郎氏 小名濱視察

昨夜來平投宿

淺野總一郎氏は小名濱商港問題につき昨三日夜十一時平着列車にて來平住吉屋支店に投宿今朝六時小名濱へ向つた

四九)は三日午前八時五十五分平驛發列車で平署の橋矢田部長監視の下に仙臺刑務所護送された、深編笠に面を包んだ治八郎の顔を見たさに驛前には黒山のやうに人があつまつて居た、驛前の派出所に少憩中警官に水を所望しさびしさうに人だかりをながめてゐた

本炭品評會

來る七日より開會

東京營林局主催の關東北一府十二縣の營林署官工木炭品評會は來る七日より平町留會議事堂に於て開催され平湯本町地方からこれ等の郡會議事堂に於て開催されるが審査官には平營林署長平岡保代、東京營林局技師が當り十三日優良品の授與式がある筈

悪商人が横行し 産業の向上を妨ぐ

ザラ米取引に耽つて 湯本方面の奸商

磐城産新米の出廻りは今月旬だが同産米は平穀檢査所の開設を來着々と品質改商一部には檢査米に對して利を追ふて農家とは俗にいはばかりか湯本町方面の大量取引をなす移出米商人が價格の高低よりも磐城米聲價の品質のよいのを希望して小心者の貞一は極度に母の死を悲嘆し一面目下農繁時の爲め母の葬儀等に就いても村人に一方ならぬ迷惑をかけた事を苦慮の餘り同日母の葬儀を終つてから遂に自殺を決意し寺から自宅への歸途前記夏井川に飛込んで自殺を計つたが水淺いため死に切れず縊死を遂げたものである愚判明した

白水五人殺し 仙臺に護送

平署前の雑踏

平署前の雑踏は今月旬だが同産米は平穀檢査所の開設を來着々と品質改商一部には檢査米に對して利を追ふて農家とは俗にいはばかりか湯本町方面の大量取引をなす移出米商人が價格の高低よりも磐城米聲價の品質のよいのを希望して小心者の貞一は極度に母の死を悲嘆し一面目下農繁時の爲め母の葬儀等に就いても村人に一方ならぬ迷惑をかけた事を苦慮の餘り同日母の葬儀を終つてから遂に自殺を決意し寺から自宅への歸途前記夏井川に飛込んで自殺を計つたが水淺いため死に切れず縊死を遂げたものである愚判明した

今將に達成の域 (二)

小名濱　小野生

「筆者の都合により本日休載」

奉頌明治節

明治節を壽きて
素謡に輝く燭や
菊薫る
明治大帝を偲び奉りて
神去りし偉人
偲ぶや菊の宴
黄菊咲く賤か
伏屋の住み心地

福島にて
草野順平

磐城新聞社御中

謹告

謹啓晩秋之候各位益々御清榮之段奉慶賀候陳者永年各位の多大なる御配慮に預候弊店田町油槽所今般常磐線關本驛前弊店油槽所を擴張移轉致す事に相成候に付放油は勿論油類一切貯藏致さざる事に相成候

右謹告旁々永年の御庇護に對し厚く御禮申上候

謹白

昭和二年十月

平町二丁目
關内油店
關内正一
平町各位

強烈なる滋養と美味を以て例年御期待下さる

カキ貝御料理

相始め申候

カキフライ　一人前　三十錢
カキなべ同　五十錢　品
カキよせなべ同　五十錢　々
スガキ同　廿五錢

十一月一日より

洋式宴會仕出し

一の井

電話一六七番

鐵筋コンクリート
鐵骨組立　土木、建築、請負業
和洋建築　合資會社
文化式建築
設計監督　丸三森川組
社長　大森鎮平
東京日本橋市茅場町二〇
電話茅場町66四五二番

常磐第一ノ大炭商ガル
磐城炭ノ大特長

◎石炭と「コークス」の特長

一、目方ノ正確
二、品質ノ優良
三、配達ノ迅速

ドーシテアンナ良イ品ヲ、ソンナニ安ク賣レルカ驚カシ一度使ヘバ永久ニ御使ヒ下サルノガ當店石炭ト「コークス」ノ特長デス

値段正十貫目一俵金六十五錢也

平驛前
◎阿部石炭商店
電話二三七番